令和８年９月１日 第６号
文京区立音羽中学校
文京区大塚１丁目９番２４号

音羽通信

持続可能な学校・持続可能な職員室

第１学年主任　　大島　裕子

熊本では地震、千葉では豪雨、と目を覆いたくなるような災害に心を痛める夏だったように思います。同時に、今年も４５日の夏休みを過ごせることを、ありがたく思いました。

音羽中では、夏休みの１週めに教育相談を行い、１学期を振り返りながら、２学期に向けての目標を各家庭と確認させていただいています。保護者の皆様にはお仕事の都合をつけて来校していただき、ありがとうございました。そこで感じたのは、父親の教育相談参加率の高さです。今年度の私の体感では、父親と母親の参加の割合は同じぐらいでした。

折しも、８月１日の朝日新聞に「男性の育休初の５割超え」の記事が掲載されていました。実に、前年度より１０．４ポイント上昇し、５０．９％の男性が育児休業を取得しています。かねてより、当たり前に男性も育児休業を取得できる社会であったほしいと願っていましたが、潮目が変わった感があります。本校でも、昨年度は体育科の関口先生が、今年度も理科の岡先生が育児休業を取得しています。

出産・育児・介護・闘病などライフステージの変化に合わせた柔軟な働き方は、家庭と仕事の両立の可能性をより広げるとともに、一人の人間としての成長につながります。また、仕事の幅も広がると感じます。

私自身も、学年主任として、「働く人それぞれの事情や制約を前提に仕事のありかたを考える」ということをより強く意識するようになりました。小さなことかもしれませんが、早めに方針を示し、計画を立て、進捗を確認しながらなるべく定時（１６時４０分）に業務を終えられるようなスケジュール感を常に考えています。

しかし、教員の仕事は学年の仕事だけでなく、教科や部活動、行事、委員会、保護者対応など多岐にわたります。できればすべての仕事が定時に終えられるようにしたいと考えますが、難しいでしょうか。

『タスキメシ』などの著作がある人気作家・額賀澪さんの新刊『先生がおわらない』では、学校現場の理想と現実が描かれています。その中で教育実習生の山瀬が、「俺、忙しくて余裕がなくなると、自分のことばっかりになるんだよ。」と、同じ実習生仲間の祥太に心情を吐露していて、効率化できる部分とできない部分のバランスの難しさを考えさせられます。

「働き方改革」と叫ばれて久しい昨今ですが、一人の力で行うことが難しい改革も、一人でできるところから少しずつ始め、やがて組織として持続可能な学校・職員室にすることが必要な時代になっていくと思います。

２学期もどうぞよろしくお願いします。

◆ ◇ ◆ ９月の行事予定 ◇ ◆ ◇

１日（火）始業式　避難訓練　防災引き渡し訓練	１８日（金）生徒会役員選挙
２日（水）時間割Ⅱ始　専門・中央委員会	２４日（木）定期考査Ⅱ第１日（社会・国語）
学校安全衛生委員会	給食なし
７日（月）生徒朝会　安全指導	２５日（金）定期考査Ⅱ第２日（数学・理科・英語）
９日（水）２年修学旅行（～１１日）	２８日（月）６カット　専門委員会
１４日（金）６カット（５時間授業）　研修会	２９日（火）ふれあい給食　３年領域診断テスト
１６日（水）１年音羽公開講座	３０日（水）中央委員会